



4月25日(木)、旭小学校の3, 4, 5年生が遠足で矢作海岸に出かけ、磯観察を行いました。心配された雨も上がり、子どもたちは元気いっぱいです。

講師は、観音崎自然博物館の山田博和さん(右の写真)です。子どもたちに生き物の名前を教え



てくれたり、生き物の獲り方を示してくれたりしました。

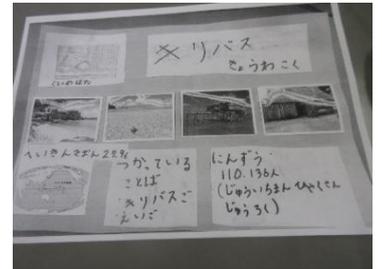
さすが、三浦の子どもたち、どんどん海に入っていきます。ハゼの仲間やカニ、エビ、ヤドカリなどを捕まえていました。中には、巨大なアメフラシ(右の写真)も。なかなか、これほど大きいものは見られません。



児童は、休む間も惜しんで活動し、お弁当をはさんで、午後も、磯観察が続きました。捕獲した生き物は、学校に持って帰って、水槽で飼うそうです。

4月17日(水)の、ケンタロ・オノさんの講演会を受けて、上宮田小学校の2年生が、早速、キリバス共和国について調べたそうです。

それをまとめたものが、右の写真です。こういうひろがりには素敵ですね。先生方が、授業等どこかの場面で、キリバスの状況について話題に出してもらうだけで、子どもたちも関心を持ってくれる一つの例だと思います。



5月8日(水)、南下浦小学校の全校砂工作が実施されました。

全校児童は、8つのグループに分かれ、海に関わるものを作っていきます。ジンベイザメ、タコ、海賊船など、次第に形ができていきました。各グループは、1年生から6年生までで構成されていて、6年生が、1~2年生をリードして、全体にも指示を出していきます。このグループ分けは、1年間続いて、様々な行事で協力していくそうです。

完成すると、グループとその担当の先生が集まって、記念写真を撮りました。みんな楽しそうだし、自分たちの作品に愛着を持っていることが伝わってきました。

この行事は、伝統的なもので、見守っていた南下浦小出身の保護者によれば、すでに、自分が小学生の時(35年前)には、違う場所でやっていたそうです。

子どもたちはお弁当を食べた後、作った作品を崩したり、埋めたりして、元の状態に戻して帰ったそうです。



4月24日(水)の海洋教育部会で、初声小の下里美紅先生、上宮田小の田中真理子先生、初声中の藪崎正信先生が、みうら学・海洋教育推進委員会のメンバーに決まりました。また、先輩授業は南下浦小の藤田健太郎先生が行うことになりました。なお、部長は、下里先生です。(文責 事務局長 渋谷)

海洋教育に関するお問い合わせは、みうら学・海洋教育研究所854-9443まで